

世界で初めて内部被曝を告発，初来日

インゲ・シュミッツ・フォイエルハーケ女史



欧州放射線リスク委員会委員長の医学研究者で物理学者。「非核の未来賞」を受賞。30年前の1983年、広島原爆被害のデータを基にして、いま大きな問題になっている内部被曝の真実を明らかにした。喜寿の年をおしての初来日。福島、広島、東京の講演・懇談会に加えて、また京大原子炉実験所を訪問。女史の日本へのメッセージが待たれる。

放射線に立ち向かうドイツ専門家の講演・懇談会

フクシマ，ヒロシマ，ドイツを考える

チェルノブイリとドイツとフクシマを考える
セバスチャン・プフルークバイル博士



ドイツ放射線防護協会会長で医療分野の物理学者。チェルノブイリ事故による欧州の数多くの被曝データと福島原発事故を低線量被曝として論証を進めている。たびたび訪日して日本へメッセージを精力的に届けてきている。1946年生まれ。同じ敗戦国ながら東電の原発事故を契機に脱原発に踏み切ったドイツから学ぶものは多い。

インゲ、セバスチアンと語ろう

どなたもご参加ください

日時：2012年6月29日（金）午後6時～9時 開場30分前
会場：東京文京区民センター

入場無料 資料代 ¥1,000

文京区本郷 4-15-14 TEL(03)3814-6731

低線量被曝や原発と疾病、フクシマとチェルノブイリ、また脱原発のドイツなどを縦横に

他の講演等の予定

6月26日 放射線影響研究所、広島平和記念資料館訪問

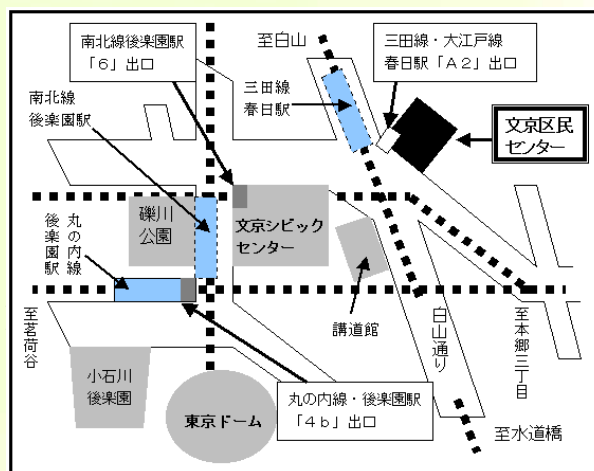
広島講演・懇談：午後6時～9時（開場午後5時半）

記者会見予定

・広島市まちづくり市民交流プラザ 北棟 6F

6月28日 京都講演：午後2時～5時（開場午後1時半）

キャンパスプラザ京都 2F



主催：市民と科学者の内部被曝問題研究会

Association for Citizens and Scientists Concerned about Internal Radiation Exposure (ACSIR)

<http://www.acsir.org/>